

保土ケ谷区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	保土ケ谷区地域子育て支援拠点事業
対象期間	令和3年度～令和7年度(5か年)
事業の実施者	特定非営利活動法人ピアわらべ
	保土ケ谷区こども家庭支援課
実施目的	1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。 2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。
実施時期	令和7年9月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。 毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。 今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p> <div><p><b>【参考】拠点の7事業</b></p><ol style="list-style-type: none"><li>1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業)</li><li>2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業)</li><li>3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業)</li><li>4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(ネットワーク事業)</li><li>5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業)</li><li>6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業)</li><li>7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</li></ol></div>

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	(事業評価当日からの課題) ・つながりたいという親のニーズをくみ取る工夫が必要。 ・仕事復帰後の利用など切れ目のない支援への対応 ・妊娠期の方、0歳児の利用促進	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。	(振り返りシート・意見交換からの課題) ・子ども同士が関わり合えるよう環境整備を行い、養育者にも子ども同士の関わり合い(けんかも含め)の大切さを伝え、ひろば以外でも養育者が実践できるよう、発達に応じた関わり方について理解できるよう伝えていく必要がある。 ・子ども同士関わり合えるツール(おもちゃ等)、利用者がリラックスできる設備や環境については、今後も工夫していく。	B	B
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。	・アクセスが不便な利用者に対し、関係機関と協力して、今後も外遊びなどの企画を実践していく。 ・外国籍の親子に対する支援について検討が必要	A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

年間利用者数(延べ人数)				
内訳	R3	R4	R5	R6
0歳児	2,535	3,654	3,846	4,001
1歳児	2,526	3,045	3,954	3,827
2歳児	801	1,370	1,245	1,682
3歳児	481	494	676	591
4歳児	134	186	243	229
5歳児～	63	152	242	175
養育者	6462	9006	10,265	10,651
総数	13,002	17,907	20,471	21,156

年間登録者数(人)			
R3	R4	R5	R6
653	886	867	1,992

利用してよかったこと(アンケートより)		
複数回答可		
	R3	R5
1位	子どもが自由に遊べる 95%	子どもが自由に遊べる 89%
2位	気分転換が出来る 62%	気分転換が出来る 56%
3位	子育てに関する情報が得られる 46%	他の利用者と交流できる 55%

養育者の内訳(延べ人数)

内訳	R3	R4	R5	R6
母親	5,464	7,636	8,650	8,703
父親	687	881	1,032	1,263
祖父母	85	146	236	93
プレパパ・プレママ	177	258	216	373
その他	49	85	131	219

利用したことによる自身の変化

	R3	R5
1位	地域を身近に感じるようになった 98%	子どもの成長の見通しがつくようになった 90%
2位	他の親の子どもへの対応が子育ての参考になった 96%	地域を身近に感じるようになった 88%
3位	子どもの成長の見通しがつくようになった 95%	他の親の子どもへの対応が子育ての参考になった 88%
4位	他の親子が困っている時に声掛けが出来るようになった 95%	他の親子が困っている時に声掛けが出来るようになった 87%
5位	悩みや孤立感の減少 94%	悩みや孤立感の減少 87%
6位	困った時に手を貸してといえるようになった 78%	困った時に手を貸してといえるようになった 69%
7位	自分のことを打ち明けられる相談相手が出来た 71%	自分のことを打ち明けられる相談相手が出来た 56%

そう思うとややそう思うを足した数値 データは四捨五入

### **1 安心して過ごせる環境作りと交流の場の工夫**

①年齢に応じたレイアウトや利用者同士がゆっくり話せる場を工夫するなど環境整備を行った。また初来所のきっかけとなるよう「はじめてDAY」を開催。「はじめてバッチ」を用意し、利用している方と交流出来るようつないだ。

②来館につながりにくい層(自宅から遠い、不便、行ったことがないので不安等)には、ホームページやSNS、イオンスタイル天王町の情報コーナー等を活用してひろばの様子を伝え、利用者数、登録者数の増加につながった。コロナ禍では予約制(R4.6月より解除)、午前午後入替制、普段以上に感染症対策を行い、安心して利用してもらえるよう心掛けた。

### **2 多様な人が訪れ関わり合える場の提供**

①妊娠期の方に向けて、体験型のプログラム(沐浴・妊婦体験・ベビーマッサージ・赤ちゃん用玩具づくり)を開催したり、区役所の両親教室後のひろば見学を実施し利用者と交流できるよう促した。また、産後参加できるプログラムを周知し、ひろば利用につながった。

②様々な方が利用しやすいようにシニアボランティアや先輩ママボランティア、学生を配置したことで、親子と交流する姿が見られた。

### **3 子育て世代のニーズを把握し、事業に活かす**

①ひろばの利用者アンケートや「幼稚園、保育園入園後の生活を知りたい」、「パパ同士育児の悩みを話したい」という声から「保育園・幼稚園の選び方講座」「お父さんと笑おう」等の講座を開催した。また、同じ悩みを持つ人と話したいという声から、日々ひろばの中で利用者同士のおしゃべり会の取組を行っている。

### **4 子ども同士関わり合い育つ場、妊娠期から親同士がつながり学ぶ場の提供**

①子ども同士がおもちゃの取り合いをしている時など、スタッフが子ども同士関わることの大切さを伝えた。

②妊娠期の方に向けて、プレパパ・プレママDAYを開催し、妊娠期からの交流や出産に向けての学びの場を提供した。

③産後2～5ヶ月の方に向けて、子どもへの愛着行動や仲間作りのプログラム(BPプログラム)を実施したり、父親同士、育児や仕事のことなど話す機会を設け、継続した活動となっている。

### **評価の理由(区)**

①母子手帳交付時に、はじめてDAY・プレパパ・プレママDAYの周知を積極的に行い、妊娠期から拠点につながるきっかけづくりを行った。区の両親教室や赤ちゃん教室、子育て支援連絡会で拠点スタッフが直接周知する場を調整し、顔の見える関係づくりを行った。

②養育支援が必要な家庭等に対して、地区担当保健師が拠点利用を促し、必要時同行する等して利用につなげた。区の両親教室後に拠点見学を取り入れることで、妊娠期から夫婦揃って拠点につながるきっかけづくりを行った。区からの委託事業として、実行委員会(親と子のつどいの広場、主任児童委員会、拠点)で実施したほどがやこどもニコニコフェスタで作成した親子の居場所紹介動画を区役所戸籍課モニターで放映し、1階入り口に拠点広報誌を配架することで、子育て世代以外の区民にも広く周知を行った。ひとり親や、障害を持つ養育者、障害のある子を育てる養育者も参加しやすくなる居場所の在り方を拠点と一緒に検討していきたい。

③拠点が実施しているアンケート結果や利用者の声、また地区担当保健師が把握した地域のニーズを区・拠点定例会で共有し、子育て世代のニーズ把握に努めた。見えてきた課題に対して、拠点が主体的に事業を見直したり、新たに事業を立案したりできるよう、区として支援していきたい。また、区が令和4年度に実施した子育てアンケート結果に関して共有し、把握したニーズから、拠点の事業に反映させられる様に努めた。

④拠点事業については、区・拠点定例会で報告を受け、また、実際に見学し、内容を確認した。

## 拠点事業としての成果と課題

### (成果)

- ①「はじめてDAY」を令和2年から開催し、以前より登録者数も増加している。はじめてDAYの時に全体に利用説明をしたり、ボランティアに絵本を読んでもらう機会を増やし、好評である。
- ②「お父さんと笑おう おとわらの日」(平成30年度～令和6年度)のプログラムは、参加した方がゲストに、ゲストから企画、担い手へと循環している。今後も子育て当事者が事業に参画していくことを目指す。
- ③妊娠期の体験型プログラムは希望者も多く、参加した9割の方が満足と答えている。また区の両親教室後のひろば見学を継続し、妊娠期の方と、0歳児をはじめ利用者が関われる機会を継続していく。
- ④同年齢、異年齢の子ども同士が関わり合う事の大切さをひろば対応の中で養育者に伝えたり、身近な地域の遊び場情報を養育者に提供した結果、ひろばアンケートでは、利用したことによる自身の変化として、「子どもの成長の見通しがつくようになった、地域を身近に感じるようになった」等が上位で取組の効果が上がっている。

### (課題)

- ①妊娠期プログラムについては、参加希望が多く全ての希望に応えられていない。親と子のつどいの広場などに現状を伝え、協力を仰いでいく。
- ②「令和5年度こっころに関するアンケート」では、43.1%の方が妊娠期から利用できることを知らなかったという結果が出ている。日頃から気軽に利用することが出来るよう、駅や自治会・町内会掲示板に情報提供したり、産院を含めた病院、イオンスタイル天王町など商業施設や企業と連携し、周知を進めていく。
- ③5年前と比べ、子育てしながら働く母親が増加している。以前と較べるとライフスタイルも変化している。父親、母親だけでなく祖父母、地域の方、企業も含め、みんなでこどもの育ちをを温かく見守っていく取組(家族支援)の検討が必要である。また、父親同士が日頃から気軽に話せるような場づくりも継続していく。
- ④コロナ禍を経て、子どもの遊びや体験の不足が課題となっている。こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン(第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画／横浜市こども計画)にもあるように、そと遊びやいろいろな素材を使ったあそびなど豊かな「遊びと体験」の場を提供していく。

## 振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気づき、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)		
		法人	区	
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	(事業評価当日からの課題) ・ひろばで対応する相談機能と子育てパートナーが関わるべきケース、関係機関が連携しなければいけないケースのすみわけをスタッフ全員が知ることが必要。	A	A	
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。	(振り返りシート・意見交換からの課題) ・個別性が高く、専門相談や子育てパートナーに繋いだ方がよい相談については、スタッフが判断できるよう引き続き質の向上に努める。 ・発達に悩む方や外国の方、ふたご・みつごなど多様な利用者のピアサポートが出来る場が定期開催出来るよう計画していく。 ・養育者が潜在的に持つピアサポートの力を引き出すような声掛けが必要。	B	B	
評価の理由(法人)				
(主なデータ)				
相談実施状況 (延べ件数)				
相談項目	R3	R4	R5	R6
健康	174	156	157	253
生活	737	744	712	752
発育	673	504	462	570
しつけ	41	15	24	32
地域	131	147	171	156
親自身	157	173	96	103
仕事	91	113	82	92
家庭	105	133	78	76
就園	481	497	435	431
制度	27	42	63	76
介護	2	4	1	2
経済	1	1	0	2
その他	151	178	97	15
総数	2,771	2,707	2,378	2,560
専門相談実施状況 (延べ件数)				
専門相談員	R3	R4	R5	R6
保育士	395	327	347	366
栄養士	57	68	63	52
助産師	19	22	33	17
看護師	22	19	27	23
歯科衛生士	51	37	27	48
保育・教育コンシェルジュ	106	112	67	99
総数	650	585	564	605
令和3年度 利用者アンケートより <コロナ禍において悩んでいること・心配なこと> ・子どもにいろいろな体験させることが出来ない ・マスクをしている大人としか関われず発語が遅れないか心配 ・外出が減り、テレビを見る時間が増えた ・ママ友と会う機会が少なくなり子どもと2人でのいる時間が多い <子育てで悩んでいること、気になっていること> 複数回答可 1位：発達にあった関わり方・しつけ 50% 2位：リフレッシュする時間がない 41% 3位：子どもを遊ばせる場所がない				
相談しやすい仕組み作り				
事業	回数	内容	感想	
ふたご・みつご	月1回	情報提供 交流	・多胎児の大変さを共有することが出来て、気持ちが少し楽になった ・ふたごを育てている支援者とも話せて、先の見通しがついた	
お父さんと笑おう おとわらの日	月1回	父子で楽しむ 父親同士の 交流	・他のパパの悩みや考え方を聞いて共感できたり安心感につながった ・進う職種や家族の話を聞いて学ぶことが多かった	
外国人向け プログラム	年3~4回	情報提供 交流	・病院のかかり方や子どもの預け方などわからないことが多い。誰かに聞いていいかわからなかったのがみんなで話せてよかった。また相談したい	
アウトリーチによる相談				
事業	件数	主な相談内容		
そと遊び	年25件 程度	(養育者相談)・保育園情報・砂遊びの効果や遊び方・他の子と遊ぶ機会がない・手作りおもちゃ・妊娠中の兄弟児への対応 等		
子育て サロン訪問	年8件 程度	(支援者相談)・周知が行き届かない・補助金では運営が大変・担い手不足・会場の確保・会場が古い・支援者教材の貸出について知りたい		

## 1 気軽に相談できる工夫とスタッフの質の向上に向けた取組

①利用者スタッフの何気ない会話から相談に移行することも多く、身近な相談相手として傾聴し、相談者の自己決定や養育者同士が相談し合えるよう心掛けた。また、相談内容から新たなプログラムにつなげるなど、事業に活かすことが出来ている(入園前の不安についての相談から保育園パパママとの座談会や区の保育・教育コンシェルジュによる講座を企画)。どのスタッフからも同じ情報を伝えられるように、スタッフ間で情報共有を図っている。

②相談対応についてはスタッフ会やミーティングで事例を検討し、対応の向上に努めた。また支援が必要と思われる親子については、振り返りなどで共有し、利用者支援事業につなげた(発達、病気、虐待等 月延べ27件程度)。また、発達に関する研修などの内部研修や外部研修に参加し、多岐に渡る相談対応に活かしている。

## 2 相談しやすい仕組みづくり

①相談者のニーズ(アンケートや聞き取り)に対応するために、栄養士、歯科衛生士、助産師などの専門相談を継続して行った。通信やLINE、ホームページ、Instagramで開催日程を伝えたことで、相談日に合わせて来所する方も多い。発達に対する不安を抱える方が増加しており、保育士相談に加えて、令和5年度から療育センターの職員による相談を開始した。コロナ禍では、専門相談員による集合形式でのミニ講座は開催せず、子育てで悩んでいること、心配なことなど、よくある質問Q&Aをひろばに掲示したり、ホームページに掲載した。

②「ふたごみつごの日」、「お父さんと笑おう おとわらの日」、「外国籍の方の為の子どもの預け方講座」など利用者同士が悩みを共有しあう機会を提供し、新たな気付きがあったという声があった。発達に悩む方は、区役所や地域ケアプラザの音楽療法、地域活動ホームの講座や親子のつどいの広場でのおしゃべり会など他機関の取組に繋いでいる。

③外遊びや子育てサロン訪問等のアウトリーチによって、養育者や担い手の相談に対応することが出来た。

## 3 関係機関との連携

①発達に悩む方や外国籍の方など多様な相談に対応するために、区役所、地域活動ホーム、あひるの会(地域訓練会)、西部地域療育センター、国際交流ラウンジ等関係機関とつながり、得た情報を相談に活かしている。

②養育者自身の健康について横浜市立市民病院や区福祉保健課とつながり、養育者に対して健康の意識付けを行った。またヘルスメイト(食生活等改善推進員)による講座を開催し、食生活に対する相談に対応することが出来た。

## 評価の理由(区)

①乳幼児健診や母子訪問、赤ちゃん教室で、拠点でも子育て相談ができることを積極的に周知してきた。また、母子手帳交付時、両親教室、妊娠期後期の手紙送付時にも周知を行い、妊娠期からの周知にも力を入れた。妊娠期のアンケートが開始され、妊娠後期の方とつながる機会が増えるため、その際に拠点の周知も行っていく。区役所への相談だとハードルが高いと感じる方も、拠点だと気軽に相談できている方も多い。

②養育支援が必要な親子の場合、拠点来所時の見守りを依頼し、対応方法や支援の方向性について拠点と共有、支援してきた。また、区・拠点定例会や、ケースカンファレンス時に、相談対応の共有・振り返りを行い、適宜助言や、支援に必要な情報提供を行った。

## 拠点事業としての成果と課題

### (成果)

①保育園・幼稚園入園前の相談により、保育園・幼稚園の選び方講座を企画するなど相談から事業につなげることが出来ている。

②相談内容については、朝夕のミーティングやスタッフ会で共有し対応を検討するとともに、必要な方を利用者支援に繋げることができている。

③地域で行った外遊びや子育てサロンへの見学によって、拠点に来なくなった層、来れなくなった層の相談に応じることが出来た。

### (課題)

①多様な相談に対応するために、外国籍、ひとり親、DV、貧困、虐待、障害等について引き続き情報収集を行っていくことが必要。区の専門職と連携していく。

②育児休業を取得する方が増加し拠点の利用期間が短くなっている中で、利用者同士が相談し合えるようスタッフがニーズを把握し、つないでいく必要がある。

## 振り返りの視点

ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。

- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)																							
		法人	区																						
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	(事業評価当日からの課題) ・保育園情報含め、保育ニーズの多様化への対応が必要。(保育ニーズから家庭の状況を知り支援につなげられることもある) ・発達支援については、目に入る情報を少なくするなど工夫が必要。	A	B																						
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。	(振り返りシート・意見交換からの課題) ・外国の方への情報提供の仕方など更に工夫が必要。 ・利用者や子育て支援の担い手が情報発信に積極的に関わられるような仕組みの継続が必要。	B	A																						
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。	・SNSのメリット・デメリットを考慮しながら、効果的な情報発信方法を更に検討していく。	B	B																						
評価の理由(法人)																									
(主なデータ)																									
<div>ホームページアクセス数(延べ件数)</div> <table><tr><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>41,926</td><td>42,021</td><td>49,777</td><td>52,436</td></tr></table>				R3	R4	R5	R6	41,926	42,021	49,777	52,436	<div>LINE登録者数(人)</div> <table><tr><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7(9月現在)</td></tr><tr><td>720</td><td>1259</td><td>1,658</td><td>1,964</td><td>2,049</td></tr></table>				R3	R4	R5	R6	R7(9月現在)	720	1259	1,658	1,964	2,049
R3	R4	R5	R6																						
41,926	42,021	49,777	52,436																						
R3	R4	R5	R6	R7(9月現在)																					
720	1259	1,658	1,964	2,049																					
<div>ほどびよ地域情報掲載数(延べ件数)</div> <table><tr><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>255</td><td>241</td><td>267</td><td>256</td></tr></table>				R3	R4	R5	R6	255	241	267	256	<div>Instagramフォロワー数(人)</div> <table><tr><td>R7(9月現在)</td><td></td></tr><tr><td>620</td><td>投稿数 104件</td></tr></table>				R7(9月現在)		620	投稿数 104件						
R3	R4	R5	R6																						
255	241	267	256																						
R7(9月現在)																									
620	投稿数 104件																								
<div>地域情報の収集先について</div> <div>・関係機関(保育園、幼稚園、社会福祉協議会、地域ケアプラザ、地区センター、国際交流ラウンジ、国際交流協会等)・放課後デイサービス・自立支援協議会・生命保険会社・アートホール等音楽関係・イオンスタイル・UR機構・男女共同参画センター横浜・マザーズハローワーク・生活支援センター・タウンニュース・病院・助産師会</div>				<div>令和4年度利用者アンケートより &lt;妊娠中に知りたかった情報&gt; ・赤ちゃんのケア (抱っこやげっぷの仕方、沐浴、おむつ交換、着替え、肌荒れのケア) ・保育園、一時預かり・遊び場情報・赤ちゃんとの一日の過ごし方 ・産後頼れる場所や行政機関 ・やっておくべきことや買っておいた方がいいもの ・パパも参加できるプログラム ・乳腺炎の予防法 ・誤飲や成長段階による家での怪我の危険箇所等</div>																					

## 1 ネットワークを活用した情報の収集・提供とコロナ禍におけるオンラインの活用

- ①子育て支援連絡会等のネットワークで拠点が情報収集・提供の場であることを周知し、地域の子育て情報が届けられるように取り組んだ。また、情報作成シートなどホームページから担い手が自ら情報提供できる仕組みを作り、地域のイベントカレンダー（ほどぴよ地域情報）に掲載している。
- ②スピーディで正確な発信を目指し、メールマガジンからLINE（令和3年～）配信に移行した。定期的（週1回）に配信し、プログラムの急な変更や中止にも対応している。ホームページにも連動しており、LINEから預かり情報や相談、プログラム、地域の子育て情報、区の子育て情報のページにつながり、LINE登録者数、ホームページアクセス数も増加している。令和6年度からInstagramを開始した。
- ③コロナ禍は、主任児童委員から子育てサロンの開催状況を知らせるツールがないと相談を受け、ホームページの地域の子育て情報に掲載している。令和2年のひろば閉館時に、「メールマガジンで困っていること」などアンケートを実施し、「一日中こどもと部屋にいるのがつらい」など子育て家庭の現状を、関係機関や地域の方々に伝えることが出来た。
- ④区が制作しているほどぴよマップの公園情報の更新を行った（令和5年度まで）。ほどぴよマップは養育者に直接手渡し、知りたい情報を説明している。転居してきた方にも喜ばれている。
- ⑤国際交流ラウンジ協力のもと、外国籍の方に向けてホームページを見直した。また、子どもの預け方や病院の掛かり方情報を提供したり、分かりやすいイラスト表示、利用登録用紙を作成することが出来た。区地域振興課主催の「外国人向けサポーター講座」では、区民に拠点の外国人支援の取組を紹介することが出来た。

## 2 広く区民に向けた子育て情報の発信

- ①広報よこはま、タウンニュース、ケーブルテレビ等で拠点の事業を紹介し、情報が行き届かない層に向けて配信した。
- ②商業施設（イオンスタイル天王町）の情報ボード、サイネージ（電子掲示板）、自治会・町内会の掲示板等で情報提供し、拠点への来館を促している。
- ③子育てサポートシステムや子育てパートナーの相談から、産前支援や一時預かりの情報を収集し、ホームページを通じて提供している。

## 3 情報収集・提供に養育者・担い手に関わる取組

- ①地域の親子サークルと一緒に公園や店舗などの地域資源を取材し、拠点発行の通信（こっころだより）に掲載した。その際、親子サークル情報も掲載し周知に努めた。
- ②地域で活動する養育者や担い手が、ひろばにおいて自ら情報発信出来るよう日頃から声掛けをしている。
- ③利用者同士の情報交換ボード「つながりぼーど」をひろばに設置し、リサイクル品の交換などに活用されている。（パパママだけでなく地域の方々の情報交換の場として活用して貰えるように令和7年から「ぱぱママボード」から「つながりボード」に名称変更）

## 評価の理由（区）

- ①拠点の情報をほどぴよマップに掲載し、こんにちは赤ちゃん訪問時に全数配布を行い、区民や地域の支援者へ子育て情報を発信してきた。拠点のホームページの「地域の子育て情報」が更に充実するように働きかけていく。
- ②妊娠後期の手紙、こんにちは赤ちゃん訪問、4か月児健診、民生委員児童委員協議会でこっころリーフレット、LINEのお知らせを配布し、拠点で子育てに関する情報の集約・提供がされていることを周知している。
- ③子育て支援連絡会等を通じて、地域の子育て関連情報を拠点が発信する仕組みづくりを共に模索していく。また、区の事業等で把握した人材を拠点につなぐ視点も持っていく。今後も当事者の声を拠点を通じて発信できる方法について共に検討していきたい。

## 拠点事業としての成果と課題

### （成果）

- ①保育園訪問時や子育て支援連絡会において保育園情報の収集に努め、育児休業中の養育者のニーズに応えることが出来た。また他の施設の人が情報提供に来館した際には、利用者に直接情報を手渡ししてもらうよう伝えた。
- ②LINE、Instagram配信をスタートし、新規登録者の確保に努めた。また商業施設（イオンスタイル天王町）に情報ボードを設置し、拠点を利用したことがない方の来館につながっている。
- ③コロナ禍において、パパ向けプログラムのオンライン配信やオンライン懇親会、プレパパ・プレママオンライン講座、支援者研修ハイブリット配信など、来館しなくても学び、交流できるツールを検討し配信した。またスタッフ会や外部との会議にzoomを活用し、情報共有の効率化を図ることが出来た。

### （課題）

- ①外国籍、ひとり親、DV、貧困、虐待、障害等多様な家族が必要とする情報を収集し、提供していく必要がある。
- ②子育てに関する情報収集・提供に、養育者や担い手が関われる仕組みについて引き続き検討が必要である。
- ③ホームページのほどびよ地域情報については、掲載数の増加がみられない。掲載方法等、活用しやすくなるように検討する。また、より地域ごとの子育て情報が入手しやすくなるような情報発信の工夫が必要である。
- ④拠点が主体的に横浜市の公式サイト・アプリ「パマトコ」を使って情報を発信していくことが不十分である。

### 振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ ネットワークを活かして情報を収集し、を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 様々な子育て支援情報を拠点が集め、提供していることを広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点到情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手に関わる仕組みや工夫があるか。

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)			
		法人	区		
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	(事業評価当日からの課題) ・虐待予防のためにも、子育てサロンから拠点に繋いでもらうよう依頼するなど、各機関がそれぞれ窓口となる役割が必要。	A	B		
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。	(振り返りシート・意見交換からの課題) ・エリア別子育て支援連絡会等で、親子の現状を継続して発信し、ネットワークを活用し課題解決を行えるよう、幼稚園等のネットワークのメンバーを広げていくことが必要。	B	B		
評価の理由(法人)					
(主なデータ)					
子育て支援連絡会(地域ケアプラザエリア別)					
内訳	R3	R4	R5	R6	
開催数(7エリア)	11	18	18	14	
参加者数(延べ人数)	237	381	381	379	
<div>&lt;子育て支援連絡会の参加者&gt; 地域の参加者：主任児童委員、民生委員、自治会・町内会、サークル活動者、ボランティア等 関係機関の参加者：、保育園、幼稚園・学校、コミュニティハウス、地区センター、親と子のつどいの広場 &lt;事務局&gt; 区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、育児支援センター、地域子育て支援拠点</div>					
他機関との連携事業					
ネットワーク	事業名	R3参加者	R4参加者	R5参加者	R6参加者
保育園、幼稚園、土木事務所、社会福祉協議会(子育てサポートシステム提供会員、ボランティアが子どもの見守りとして協力)	そと遊び	249人/13回	202人/15回	302人/11回	588人/34回
親と子のつどいの広場、主任児童委員会、区役所、地域ケアプラザ、保土ヶ谷公会堂、児童相談所、消防署、警察署、郵便局、横浜FC、 保育園、幼稚園へ情報提供	ほ도가やこどもニコニコフェスタ	214人/7カ所	184人/7カ所	350人/2回	418人/2回
親と子のつどいの広場、子育て支援者、ボランティア	親子サークル連絡会	44人/2回(ZOOM)	34人/1回	19人/1回	2人/1回
保土ヶ谷国際交流ラウンジ、区保育・教育コンシェルジュ、国際交流協会、区社会福祉協議会	外国人向けプログラム	9人/1回	10人/1回	66人/3回	70人/4回
地域活動ホーム、児童家庭支援センター、療育センター、市社会福祉協議会、地域訓練会あひるの会、区役所	きらきら連絡会(発達支援)	12人/2回	18人/2回	18人/2回	16人/2回
区社会福祉協議会、子育てサロン(主任児童委員)	ボランティア講座	27人/3回	30人/3回	10人/2回	6人/1回(学生向け)
保育園、保土ヶ谷消防署、資源循環局、区役所	ほからか広場	中止	252人/1回	255人/1回	100組/1回
<div>&lt;その他&gt; ●平成24年～イオンスタイル天王町店にて子育て掲示板の設置、駐車場の無料利用 令和7年～出張相談開始 ●令和7年度～ 横浜FCとの共催 Kinder DAY「とことんボールの日」 25組/1回 ●市民病院、区福祉保健課 乳がん、子宮がん検診啓発講座、健康講座開催に協力 ●保土ヶ谷区食生活等改善推進員(ヘルスメイト)会に関する講座に協力 他</div>					

## 1 ネットワークの構築・推進の継続

①子育て支援連絡会全体会では主に講演会、エリアの取組発表を行い、子育て支援の意識・知識の向上につなげることを心掛けた。令和3年度からは、全体会の事務局(区、拠点、区社会福祉協議会、保育園センター園)に、新たに地域ケアプラザが参加し、地域との繋がりがより強まり、改めて子育て支援連絡会の在り方について、検討することが出来た。

地域ケアプラザエリア別子育て支援連絡会では、事務局メンバーとして参加した。連絡会では、地域ごとの課題の抽出を行い、課題解決に向けた意見交換や取組を行っている。地区社会福祉協議会や自治会、民生委員・児童委員、主任児童委員など地域の方々に連絡会の主旨を説明し、連絡会への参加を呼びかけたことで、地域の方の参加も増えてきている。地域福祉保健計画と連動し、ともに子育てしやすい地域作りを目指す方向性が出来てきている。

②区内の保育園・幼稚園と連携し、外遊び事業を継続している。園庭開放等その後の利用につなげ、保育園、幼稚園を地域の子育て資源の一つとして親子や地域の担い手に周知することが出来ている。

③発達に悩む養育者に向けて、地域活動ホーム、横浜市西部地域療育センター、あひるの会(地域訓練会)、区と連携し、情報交換や個々の取組に協力しあうなど、連携を深めている。また地域ケアプラザ主催の音楽療法に繋ぎ、養育者からは子どもの居場所が出来てよかったとの声もあった。

## 2 拠点の機能を活かし養育者と地域をつなぐ

①ほどがやこどもニコニコフェスタは、親と子のつどいの広場、主任児童委員会、区役所と連携し、地域ケアプラザや保土ヶ谷公会堂を会場に親子で楽しめるプログラムや身近な地域の子育て資源の紹介を行った。

②地域ケアプラザエリア別子育て支援連絡会で関係性が出来た地域の方から得た情報を、掲示やホームページで養育者に提供することが出来た。また、拠点の情報をネットワークを通じて提供している。

## 評価の理由(区)

①区、拠点、ケアプラザ、区社会福祉協議会が事務局となり、地域ケアプラザエリア別子育て支援連絡会を定期的に開催している。地域の方々と、保育園、幼稚園、主任児童委員、民生委員、地区センター等、子育て関連施設が集まり、情報共有とエリア毎の課題について話し合いの場が持たれている。地域福祉保健計画と連動して、地区ごとの活動に落とし込めるよう事務局を中心に話し合いを進めている。

②発達に不安を抱えた親子について、拠点から区へつないでもらい、区の相談や地域療育センター、あひるの会(地域訓練会)、地域ケアプラザの音楽療法等、適切な支援が受けられる居場所につないでいる。ネットワークを活かして紹介先を拡げていけるとよい。また、子育て支援連絡会を通じてつながった関係機関・者に、拠点が把握している担い手やボランティア養成講座修了者をニーズに応じてつなげられるよう、共に可能性を模索していきたい。

③子育て支援連絡会において、区が主となって事務局を運営してきた実態があり、拠点の役割が不明確となっている。今後は、拠点が主体的に事務局としての役割を果たし、連絡会を通じて子育て支援のネットワークを構築していけるように支援していきたい。

## 拠点事業としての成果と課題

### (成果・方向性)

①地域ケアプラザエリア別子育て支援連絡会の開催に、自治会長など地域の方々の参加が増え、共に地域の特徴や子育ての課題を共有することが出来るようになってきた。

②外遊びを通じて、保育園・幼稚園を地域の子育て資源として周知することが出来た。

### (課題)

①子育て支援連絡会では、子育ての現状や子育てを応援していく必要性を引き続き参加者に伝えていく。子どもを中心に、多様な家族を温かく見守り、支えていく地域のつながりづくりが拠点の役割であることを意識し、内容をさらに検討していく。

②貧困、ひとり親等の多様な親子に対する、ネットワークづくりが十分に出来ていない。今後、ニーズを把握し検討していく必要がある。

③子育て支援関係施設・者と連携し、地域の特性を活かしたネットワークを構築していくことが必要。

④拠点職員の増員、事業分担の見直しに伴い、拠点内での役割分担、情報共有、引継ぎ等が円滑に行えるよう、内部でのネットワークの再構築が必要である。

## 振り返りの視点

ア 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

イ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

ウ 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、子育て支援分野に限らず、様々な社会資源と連携・協力した取組を実施しているか。

エ 養育者や子育て支援活動に関心のある人を身近な地域の子育て支援の場や地域の活動につなげているか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)		
		法人	区	
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	(事業評価当日からの課題) ・自治会など地域の方々と一緒に地域課題に取り組むことが必要。 ・子育てしている養育者を担い手につなげることを意識していく。  (振り返りシート・意見交換からの課題) ・利用者や子どもの代弁者として、親子の孤立や子どもの育ちについて地域で考えてもらえるような発信の方法を考えていく。 ・親子サークル連絡会の開催回数や内容を検討し、親達が自主的に運営できる親子サークルが継続して運営していけるよう支援していく。	A	A	
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	B	
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		A	A	
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		B	B	
評価の理由(法人)				
(主なデータ)				
ボランティア年間活動数(延べ件数)				
	R3	R4	R5	R6
シニア	234	316	396	312
サポーター(先輩ママ)	142	88	66	77
父	0	0	2	6
学生	1	17	43	17
その他	14	0	0	0
計	391	421	507	412
支援者教材貸出数(延べ件数)				
	R3	R4	R5	R6
貸出回数	97	175	198	224
教材数	133	249	300	321
養育者・担い手を地域へつなぐ				
養育者・担い手	繋ぎ先			
ボランティア	親と子のつどいの広場、外遊び等のイベント			
イベント講師	親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、コミュニティハウス、アートホール、他拠点			
おとわらの日※ゲスト	親と子のつどいの広場、区両親教室、子育てサロン			
ほどパパ(パパサークル)	ほどがやこどもニコニコフェスタ等イベント			
ママバンド	地域ケアプラザ			
リトミックグループ	ログハウス			
おとわらの日※:パパ向けプログラム(H30～R6)				

## 1 地域の担い手への支援

①ボランティア交流会を年1～2回実施し、日々の活動の中での困りごとを共有したり、得意なことなどを紹介し合うなど活動意欲の向上に努めた。特に令和5年度は、シニアの活動者数、日数が増加し、ひろばでの見守りや区社会福祉協議会の折り紙ボランティアの活動など、子どもと触れ合うことで元気になれるという声も聞かれた。

②支援者向けアンケートの声から「子どもとの関わり方」「発達に悩む親子への支援」を学ぶ研修会を年1回実施し、参加者からは「子どもや子育てに悩む養育者の気持ちを理解することの大切さを知った。今後の活動に活かしていきたい」という感想が多かった。

③親子サークルや支援者相談から担い手不足という課題が出たので、区社会福祉協議会と共催でボランティア養成講座を開催した。その結果、学生を含む新たな人材に地域の施設を紹介することが出来た。また拠点の事業に関わった人材を子育てサロンやログハウス、コミュニティハウスなどに紹介した。(年5組程度)

④子育てサロン運営者など地域の方や保育園など関係機関にむけて、支援者教材の貸し出しを継続している。身近な場所で教材を準備でき、子ども達にも喜ばれたという声が多かった。

## 2 養育者を地域の活動に繋ぐ

①親子サークル連絡会(オンラインを含む)を区6か所の親と子のつどいの広場と年1～2回共催し、サークル同士の情報交換や交流の場を提供した。メンバーの減少などの課題に対して、ひろば内に親子サークルのポスターを掲示できるコーナーを新設し、養育者にサークル活動を周知することが出来た。また親子サークルのメンバーが拠点の通信記事作成に関わる機会を提供し、親子サークルの周知にもつながった。

②父親向けプログラムの「お父さんと笑おう」の参加者(対談のゲスト)を子育てサロンにつないだり、また音楽や体操、手芸など活動に関心がある方へログハウスなど活動の場の提供を行った。

## 3 子育てしやすいまちづくりへの提案

①区地域福祉保健計画推進会議や地区社会福祉協議会懇親会などに参加し、子育ての現状や拠点の事業について伝え、子育て支援連絡会への参加を促した。連絡会では地域毎の特徴や親子の孤立化など課題を共有し、取組を考えることが出来た。

## 4 学生や妊娠期の方に向けての取組

①区社会福祉協議会や地域の中学校、高校と連携し、学生に親子と関わる機会を提供したり、地域の社会資源を伝え、ボランティア登録にもつながった。また、近隣の小学校の社会科(税金の使い方)の授業へ協力し、教師を通じて子ども達に拠点の事業について伝えることが出来た。

②妊娠期の方に向けて、沐浴、妊婦体験など体験型講座を開催するとともに、0歳児の親子と交流する場を設けその後の拠点利用につなげた。また助産師によるオンライン講座を開催し、産後の身体や心、夫婦のコミュニケーションの大切さについて学ぶ機会を企画し、参加者からは産前から夫婦で話し合うことの大切さが分かってよかったという声が聞かれた。

## 評価の理由(区)

①地域ケアプラザエリア別子育て支援連絡会をより充実させたものとするため、子育て支援連絡会事務局研修を実施した。また、拠点における支援者研修の講師として、心理士の先生を紹介し、発達に課題を抱える親子への支援について学ぶ場をつくった。子育て支援者の定例会を拠点で開催し、お互いの活動について情報交換を行う場を設定した。

②親子サークル連絡会に子育て支援者と共に参加した。連絡会で出てきた課題や、今の時代に合わせたサークルの在り方、今後の支援の方向性について、拠点と共に検討していく必要がある。また、両親教室に参加していた養育者に産後、講師(先輩パパママ)として参加してもらい、支援者側の役割も担ってもらっている。

③地域の会議に出席し、今まで関係機関の参加が主だった子育て支援連絡会への地域の方々の参加を促し、参加を得ることができた。地域の方々にも子育て世代の現状や課題を伝え、地域での見守りの大切さを伝える機会を持てている。

④小学校への出前講座を実施し、これから親になる世代に対して、子育てについて考え学ぶ場を作った。今後同様の機会を得た場合、事前に拠点に情報提供を行い、相互に取り組めることがないか検討していきたい。また、区の両親教室において、先輩パパ先輩ママとプレパパプレママと交流する機会をつくり、相互に学び合うことができている。

## 拠点事業としての成果と課題

### （成果）

- ①区社会福祉協議会ボランティアセンターや地域の高校との連携により、新たにボランティア活動をする方が増加している。また、中学校とつながり、職業体験の受入を行い、学生が子どもと関わる体験をしたり、地域の子育て資源を知るなど、子育てへの関心を高めることが出来た。今後も横浜国立大学、桜丘高校等と連携し、子育て支援に興味関心を持つ学生が増えていくよう取り組んでいく。
- ②担い手の活動意欲の向上に向けて、ハイブリット開催などオンラインを取り入れた研修会（年1回）を開催することが出来た。今後も対面とオンラインを併用するなど、開催方法を考えていく。

### （課題）

- ①担い手不足が地域の課題となっている。ボランティア募集を継続するとともに、拠点で活動する担い手や新たな担い手を地域の活動につなげていくことが重要である。
- ②育児休業を取得する方が増加し、親子サークル数が4年前より減少している。今どきの養育者のニーズを捉え、拠点として親子サークル支援の方向性を検討していく必要がある。
- ③地域の方の子育て支援連絡会への参加者が増加しているが、今後も共に子育てしやすいまちづくりを目指していけるよう、拠点が子育て支援連絡会事務局として、主体的に連絡会の内容をさらに検討していく必要がある。

## 振り返りの視点

- ア 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。かつ新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- イ 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- ウ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- エ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- オ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- カ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- キ 子育て家庭（妊娠期の方を含む）を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ク これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	(事業評価当日からの課題) ・法人の理念とあわせて、地域の方が子育てに関わる重要性を伝えていくことが必要。	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。	(振り返りシート・意見交換からの課題) ・外国の方、障がいの方のコーディネートについては、関係機関と協力して検討していく。	B	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。	・SNS等連絡方法の検討をしていく。	A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。	・リフレッシュ等ニーズに合った預かりの在り方を検討していく。	A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

会員数 (人)

内訳	R3	R4	R5	R6
利用会員	453	507	569	632
提供会員	88	104	115	120
両方会員	28	29	32	28
計	569	640	716	780

活動内容別件数 (延べ研修)

内訳	R3	R4	R5	R6
利用会員宅預かり	78	123	240	428
保育園・幼稚園等の送迎	124	199	219	270
習い事・塾の送迎	240	261	205	174
学童保育等の送迎	76	54	19	63
学童保育等の下校時の預かり	0	36	147	43
提供会員宅預かり	66	34	71	95
地域子育て支援拠点・親と子のつどいの広場での預かり	59	80	106	117
小学校下校時送迎とと預かり	0	0	207	16
保育園・幼稚園と帰宅後の預かり	94	103	54	32
その他	5	42	116	348
計	742	932	1384	1586

みまもり隊活動数 (延べ人数)

R3	R4	R5	R6
15	15	27	24

あまちゃミーティング※活動数 (回)

R3	R4	R5	R6
47	71	102	76

※提供・両方会員とコーディネーターの面談

入会説明会

内訳	R3	R4	R5	R6
拠点入会説明会 (延べ件数)	31	36	35	34
参加者数 (人)	162	202	276	270
個別入会説明会 (延べ件数)	30	40	37	24
参加者数 (人)	38	45	39	26
参加者合計数 (人)	200	247	315	296
出張入会説明会 (延べ件数)	9	12	6	4

出張説明会 開催状況

年度	開催場所	回数	参加数 (人)	登録数 (人)
R3	親と子のつどいの広場 とびあ	5	11	9
	初音ヶ丘地区センター	1	4	2
	西谷地区センター	1	2	2
	イコットハウス	1	4	3
	常盤台地域ケアプラザ	1	2	0
	子育てサロン ピッコロ	1	6	0
R4	親と子のつどいの広場 とびあ	6	13	9
	親と子のつどいの広場 マムマム	1	4	0
	西谷地区センター	1	3	3
	星の丘ビューシティ	1	5	2
	保土ヶ谷公会堂	1	4	4
	ときわの森	1	5	1
R5	子育てサロン ピッコロ	1	4	0
	UR明神台	1	6	1
	親と子のつどいの広場 マムマム	1	2	1
	子育てサロン ことり	1	2	0
	常盤台地域ケアプラザ	1	3	0
	ときわの森	1	2	1
R6	星川地域ケアプラザ	1	2	1
	親と子のつどいの広場 マムマム	2	7	6
	子育てサロン プチ☆スター	1	6	1
	ときわの森	1	4	4

## **1 周知活動と提供会員拡大に向けての取組**

①区広報やタウンニュースへの掲載、地域の掲示板、母子手帳交付時やこんにちは赤ちゃん訪問員定例会での周知の他、ホームページ・LINE等オンラインを活用し、子育てサポートシステムの仕組みを周知し登録につながった。

②利用会員に対して提供会員(子どもの預かり手)が4:1と不足している為、拠点の他事業や、民生委員・児童委員協議会、地域ケアプラザエリア別子育て支援連絡会、区内小学校での周知、地域で提供会員向け入会説明会を実施し、地域の方が子育てに関わることの大切さを伝えた。

## **2 利用しやすくなるための取組**

①検索しやすく、分かりやすい情報提供を目指して、ホームページの子育てサポートシステムの内容を整理している。今後も会員の声を活かし、改善していく。

②さまざまな家庭のライフスタイルに合わせて、入会説明会を平日と土曜日に設定したり、養育者が必要時に利用しやすくなるために、親と子のつどいの広場やコミュニティハウスなど地域の施設に出向いて出張説明会を実施し、会員の登録に結びついた。また近隣の商業施設(イオンスタイル天王町)にチラシを配架し、気軽に利用できるように努めた。

③ひろばやホームページ、通信に利用した方の声を掲載し、安心して利用できることを周知した。

## **3 利用・活動の継続と質の向上のための取組**

①会員とコーディネーターの面談(あまちゃミーティング)を開催したり、活動後に聞き取りを行い、継続できるよう取りくんだ。活動の少ない会員には、外遊びなどのイベント開催時の子どもの見守りなど(みまもりたい活動)を紹介した。

②アンケートの声から「子どもとの関わり方」や「発達に悩む親子への支援」を学ぶ研修や救命救急研修を実施し、質の向上に努めた。また、個人情報や安全な預かりについての啓発を行った。

③会員同士の関わり合いの場として交流会を企画実施した。手作り品を作りながらおしゃべりしたり、コロナ禍にはオンラインを活用した交流会を実施し、気軽に参加することが出来たと好評だった。

## **4 利用相談に応じた情報提供**

①相談内容によって子育てサポートシステム以外の資源の情報提供を行った(乳幼児一時預かり、休日保育、親と子のつどいの広場一時預かり等)。

②特に配慮が必要な相談は、当事者の同意を得て区のこども家庭相談など総合窓口につないだ。

## **評価の理由(区)**

①母子手帳交付時や乳幼児健診等で子育てサポートシステムについてのチラシを配布し、広く周知を行った。母子手帳交付時面接や、母子訪問、乳幼児健診等で把握した、事業利用が必要な方には具体的に周知を行い、利用を勧めている。また、子育て支援連絡会で、未就園の子が地域に半数近くいること、実家も遠方で孤立している親が多いこと、子どもを預けるニーズが高いことと併せて、子育てサポートシステムの現状を、地域の課題として伝えている。今年度は、区連合町内会長連絡会で子育てサポートシステムについて掲示板掲載など、周知を依頼した。

②急を要する方や、個別の対応が必要な方に関しては、コーディネーターに依頼し、同行訪問にて登録・利用を進めてきた。

③子育てサポートシステムに関する研修開催に関して、拠点が主体的に運営できるように支援した。

④子育てサポートシステムの利用を通して、専門的な対応が必要と考えられる方については、本人の同意のもとで区に情報提供を行い、継続支援につなげた。

## **拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ①区広報、タウンニュースでの周知、地域での会員向け入会説明会の実施や他事業での周知等により、会員が増加した。説明会では子育ての現状や、地域の方が子育てに関わる大切さについて伝えることが出来た。
- ②子育てサポートシステムの相談、利用を通して、支援が必要と判断された方に対して、拠点が区へ情報提供し支援につなげることが出来た。
- ③相談内容によっては、利用者支援事業や他の資源を紹介し、支援につなげることができた。

(課題)

- ①預かり手が不足している。地域毎の会員のバランスを考えて、子育て支援連絡会、区連合町内会長連絡会、民生委員・児童委員協議会など、拠点と区が役割分担して、周知をしていく必要がある。
- ②「令和5年こっころに関するアンケート」では、子育てサポートシステムを知っている方は65%で、実際に利用した方は10.4%。システムが新たに導入されたので、入会説明会の申込みや説明会にSNSを活用するなど利用促進について工夫していくことが重要である。システムの使いにくさなど課題については、横浜市と検討していく。
- ③提供会員からのSNSを活用した連絡については、問合せフォームを案内しているが、さらに効果的な連絡方法を検討していく。
- ④多様化する預かりに向けて報告を丁寧に読み、安全な預かりになるような仕組みを再構築することが大切である。

### 振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を含め、利用したい人が利用に結びつくための工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに安心安全な活動できるよう、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や追加のフォロー等を行っているか。
- カ 活動における事故防止のための講習、個人情報取扱いに関する注意喚起など、会員への安全対策をはかっているか。
- キ 提供・両方会員が安心・安全な活動を継続して行えるよう研修会等の取組がなされているか。
- ク 会員が活動の意義を感じられ、会員間の親睦を深め信頼関係の構築のため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ケ 援助活動の調整時や会員の声から把握した子育てのニーズを地域子育て支援拠点としての事業に活かしているか(新たな事業の実施や事業の見直しなど)
- コ 利用相談の内容に応じて、子育てサポートシステム以外のサービス等の情報提供や関係機関に適切につないでいるか。
- サ 専門対応が必要と考えられる相談については、専門機関に適切につないでいるか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	(事業評価当日からの課題) ・ひとり親などハイリスク層をカバー出来ているか確認が必要。課題を共有して対応していく。 ・利用者のひろばでの雰囲気やその家庭の特性を把握したうえでつなぐ高度な業務なので、資源に精通していることが大事。 ・基本型と母子保健型の違いを理解する。(区)  (振り返りシート・意見交換からの課題) ・利用期間が短いのでより効果のある周知方法を検討していく。 ・相談が多岐に渡っているので、新たな繋ぎ先との関係づくり、新たな取り組みを視野に入れて事業を行う。 ・出張が多く1人では対応できない。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	B
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

個別相談数 (延べ件数)

	R3	R4	R5	R6
対面	210	568	580	247
対面 (個室)	11	4	7	22
電話	46	52	64	58
出張相談	38	43	93	27
その他	4	16	36	14
計	309	683	780	368

相談者種別 (延べ件数)

	R3	R4	R5	R6
母	295	569	645	343
父	23	28	18	17
祖母	1	11	13	1
祖父	1	0	2	2
ブレママ	2	4	0	1
ブレパパ	0	1	0	0
その他	6	8	120	0

相談内容 (延べ件数)

	R3	R4	R5	R6
子どもの生活	135	299	458	243
子どもの発言・発達	100	320	343	165
親自身	109	202	222	155
就園・就学	46	98	138	72
子どものしつけ	24	37	40	48
子どもの健康	21	76	94	44

仲介・支援依頼先

- ・保健師・助産師
- ・区保育・教育コンシェルジュ
- ・区ケースワーカー
- ・保育園・幼稚園
- ・一時保育・一時預かり
- ・親と子のつどいの広場
- ・子育てサロン
- ・子育て支援者会場
- ・地域活動グループ
- ・医療機関・相談機関・他区
- パートナー・他区区役所

### 1 拠点における事業周知、アウトリーチによる周知

- ①母子手帳交付やプレパパ・プレママDAY、赤ちゃん教室、こんにちは赤ちゃん訪問員の定例会、区民祭り、区役所他課イベント、ホームページやイオン掲示板での周知の他、拠点にまだ来たことがない方に向けて乳幼児健診会場で周知している。
- ②親と子のつどいの広場、イオンスタイル天王町に定期的に出張相談に出向き、相談内容に応じて情報提供することが出来た。また主任児童委員会や子育て支援者の定例会に参加し、利用者支援事業について伝えた。

### 2 主体性を尊重した個別相談

- ①相談者に寄り添い、傾聴し、主訴を聞き取り、ニーズに合った対応を心掛け、相談者の自己決定を促した。
- ②区と情報共有を行い、区のかかわりの有無を確認し、個別相談に活かした。

### 3 ネットワークの強化

- ①子育てサロン訪問を行い、顔の見える関係づくりを行った。また、発達に不安を持つ方を支援するネットワークのきらきら連絡会で情報共有を行い、個別相談に活かした。
- ②令和5年5月より月1回、イオンスタイル天王町において、出張相談を開始したことによって企業との連携が強化できた。(相談数:月4～5件)
- ③拠点が気軽に相談できる場であることを伝えるために、ほどがやこどもニコニコフェスタ、外遊び(保育園・幼稚園協力)、子育て支援連絡会等のネットワークを活用した。
- ④貧困、ひとり親、外国人支援など多様な相談等においては、区役所、区社会福祉協議会、ひとり親サポートよこはま、国際交流ラウンジ等との連携を継続している。
- ⑤保土ヶ谷区の地形の特徴として、近隣区からの利用、相談があるため、他区と連携して対応している。

### 評価の理由(区)

- ①サテライト開設に合わせて、広報よこはまで拠点における相談事業について周知した。母子手帳交付時、こんにちは赤ちゃん訪問時、4か月健診時に子育てパートナー周知チラシを配布。コロナ禍で中止していたが、令和5年6月から再び4か月健診に子育てパートナーが出席して周知を行っている。また、区民祭りや区他課イベントでも周知チラシを配布できるよう調整した。区他課や子育て関連施設に拠点について周知を行い、拠点と直接連携できるように努めている。
- ②新任子育てパートナーに対して、区の事業を知ってもらう研修を実施した。区・拠点定例会で、子育てパートナーより相談内容について共有を受けた事例に対し、課題を整理して拠点としての対応について助言している。緊急を有する内容に関しては、迅速に区課内で方針を検討し対応している。
- ③赤ちゃん教室や地域の会議等に出向いて、子育てパートナー事業を直接周知できるよう支援した。また、ほどがやこどもニコニコフェスタや子育て支援連絡会等のネットワークを通じて、子育てパートナー事業を周知できるよう支援した。

### 拠点事業としての成果と課題

- ①親と子のつどいの広場、イオンスタイル天王町への出張相談が定着してきた。親と子のつどいの広場からは、支援が必要と思われる親子について連絡をもらうなど、連携することが出来るようになった。

(課題)

- ①「令和5年こっころに関するアンケート」では子育てパートナーを知らないと答えた方が58.0%、相談したことがある方は24.1%であった。拠点を利用していない層に対して、商業施設や乳幼児健診会場での周知をコロナ禍以降、再開したが、引き続き周知が必要である。産院やレディースクリニック等との新たなつながりを検討していく。
- ②支援が必要と思われる親子について拠点から区につなぎ、拠点でも虐待予防の視点で、拠点職員全員が意識して対応できるようにする必要がある。また、相談者の主体性を尊重しながら、適切な支援が行えるよう事例を積み重ね、振り返りの機会を持つように努める。
- ③包括的な視点を持ち、拠点が主体的に関係機関や地域の社会資源との関係づくり、ネットワークの構築に努める。

### 振り返りの視点

ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。

イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。

エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。

オ 拠点内でパートナーの役割を理解し、日頃から相談者を拠点内でつなぎ合うことについて、お互いの役割分担を明確にしたうえで、相談対応・利用支

援を行っているか。相談者の相談内容に応じて継続対応やつなぐ必要性を判断し、対応しているか。

カ 専門的な対応を要する相談に対して、相談内容と相談者のニーズを踏まえ、速やかに関係機関への紹介・仲介・支援依頼を行うなど、適切な対応をとっているか。

キ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら、フォローをしているか。

ク 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点で振り返りや検討を行っているか。

ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。

コ 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。

サ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整、提案や新たな創出につなげているか。

## 協働事業プロセス相互検証シート

### 1 事業計画段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・拠点利用者のニーズを定例会にて共有した。
- ・子育て支援連絡会に関しては、事務局として十分に方向性を共有しながら検討を進めることができなかった。
- ・具体的な役割分担についての話し合いは不十分な点があった。
- ・拠点と区が連携出来そうな事業についての情報共有が不十分な点があった。
- ・拠点の各事業について、区と内容や振り返り、評価を行う機会が不十分であった。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・利用者のニーズを事業に展開したり、随時方向性を話し合いながら修正を行う。
- ・拠点が主体的に事業計画について、タイムリーかつ効果的な方法で地域に広く発信・周知する。
- ・役割分担確認表を、定例会等の場で共有し、お互いに具体的な役割分担を理解して対応する。
- ・区と拠点で連携できそうな事業について、適宜情報提供を行う。

### 2 事業実施段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・事業の目的と評価方法を共有し、事業を進めることが出来た。
- ・事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などを振り返り、修正しながら取り組むことができた。
- ・事業終了後の見通しを持ちながら話し合いを進めることが不足していた。
- ・他課、他機関との連携の必要性を共有し、お互いの役割や強みを活かしながら事業を進めることが出来なかった。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・初めて行う事業に関しては、定例会等で率直な意見交換と事業の振り返りを行う。
- ・事業終了後の見通しを持ちながら話し合いを進めていく。
- ・他課、他機関との連携の必要性を理解し、事業を進めていく。

### 3 事業の振り返り段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・単独実施ではなく、区と拠点が協働することの効果は共有できた。
- ・事業実施後の評価について、情報共有までは出来ているが、事前の評価指標の検討や結果の分析が不十分だった。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・定例会の場を活用し、事業終了後に取組経過の確認と目的を達成したかについて、評価指標（計画段階での共通認識）を用いて相互に振り返りを行う。
- ・定例会で十分な検討時間が確保できるように、事前準備や意見の集約を行い、円滑な進行に努める。